

「新生へへのメッセージ」

満開の桜に祝福されるかのように本日を迎えられた皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日から市大生、新たな生活のスタートです。現在、世界中に新型コロナウイルス肺炎問題が蔓延し政治も経済も教育も何もかもが混沌とした状況です。ただでさえ、これまでと環境が大きく異なる大学生活、期待ともに不安な気持ちで一杯かと思いますが、このような状況だからこそこれまでの自分とは異なる理想の自分を目指して生活スタイルや勉強スタイルを考え直してみても如何でしょうか？大学生活に関して分からない事だらけだと思いますが、心配は無用です。我が工学部は少人数教育であるがゆえに教職員が懇切丁寧に指導してくれますし、疑問に答えてくれます。

しかし、これらはあくまでもスタートラインに立たせてくれるとだけ、どのような四年間を過ごすかは皆さん次第です。例えば、市大には学術情報総合センターという図書館機能の施設があります。蔵書数は約二六〇万冊です。この蔵書数は全国大学図書館では一六番目、関西の全図書館の三番目の多さで、市大の大きな財産です。しかし、この宝も自分自身が上手く利用していかなければ宝の持ちぐさりとなってしまいます。つまり、これまでの高校生活と大学生活の大きな違いの一つは、自ら学ぶ、能動的に活動するそういう姿勢に対して、大学は最大限の支援を惜しみませんが、望まない人は何も得られないということです。自分自身が目標を定め自らの意志で行動しなければ、大学では有意義な時間は過ごせません。決して受け身にならず、積極的に大学生生活を過ごしてください。

いずれ皆さんは社会に飛びたつときが来ます。その時に本当の意味で自分の力で飛べる、グライダーではない飛行機型人間にならねばなりません。この『グライダー人間と飛行機人間』という言葉、ご存じですか？外山滋比古お茶の水女子大学名誉教授のベストセラー「思考の整理学」の中の言葉です。初耳の人は授業が始まるまでのこの特別な春休みに是非目を通してください。どのような四年間にするかは、皆さん次第です。高い志を持って、有意義な時間を過ごし、四年後には自分の頭で考え、更なる高みを目指す人間に成長して頂きたいと思えます。

工学部では昨年からアメリカカウイスコンシン大学マディソン校への短期研修プログラムを実施しています。コロナウイルス問題で今年度の実施はどうか不確定ではありますが、全学共通教育の優秀成績を修めた学生を対象にした派遣制度を今年から開始します。しっかりと有意義な大学生活を過ごしてください。皆さんの限らない可能性に期待を託して、新生へのメッセージとします。

令和二年四月一日

工学部長 長崎 健